

(医療機関名：高松医療センター)

今後の医療機関としての役割等について

議論の論点	医療機関の役割等						
1 病院の状況	<p>病床機能の変化の状況</p> <p>H30 年度に D P C を退出し、病床機能を急性期 60 床、慢性期 160 床から慢性期 220 床へ機能転換した。その後、60 床を回復期に機能転換しており、現在急性期病床はない。</p> <p>当院としては、下に述べるとおり、香川県難病診療分野別拠点病院及び結核の拠点病院として他病院との連携を強化しながら、他の医療機関では担えない医療機能を提供する病院として、地域医療を担っていくこととしている。</p> <p style="text-align: right;">(床)</p>						
		許可 病床数	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中 <small>※入院患者実績調査 では、未使用病床</small>
	病床機能変更前 (2017 年)	220		60		160	
	病床機能変更後 (2018 年)	220				220	
	2019 年 病床機能報告	220			60	160	
	2025 年 病床機能報告	220			60	160	
	<p>1ヶ病棟（60床）を回復期、3ヶ病棟（160床）を慢性期、全病棟が障害者施設等入院基本料算定病床として運用している。</p>						

① 急性期医療の状況について

H29年度まではDPC病棟において急性期医療を行っていたが、H30年4月よりDPCを退出し急性期医療から回復期・慢性期医療へ機能転換を図った。

なお、救急車の受入れは継続している。

また、県が行う入院患者実績調査では、令和元年7月1日から同7日までの平均で障害者施設等入院基本料算定病床に142.3名/220床受入れており、同調査において、障害者施設等入院基本料算定病床を慢性期と回答することとされていたため、全ての病床を慢性期として回答している。

② 診療実績件数

(単位：件)

診療項目	診療実績	備考
(4) 救急医療		
救急車受入件数	111	
ウォークインを含む時間外患者数	227	

2 急性期医療
の実績について

<入院患者実態調査報告：計算シート より>

・香川県医務国保課 入院患者実態調査の実施 報告

※ 医療資源投入量＝

患者1日当り診療報酬－入院基本料－リハビリテーション料

令和元年7月1日～7月7日

障害者施設等入院基本料算定病床 220床 結果報告

高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
—	—	—	—	142.3人

※ 2019年病床機能報告と入院患者実績調査の差異について

R1.11月に実施された入院患者実績調査の判断基準において、障害者施設等入院基本料算定病床は慢性期で登録することになっていたため全病棟を慢性期で報告。

病床機能報告には障害者施設等入院基本料算定病床は慢性期で登録の判断基準はなく、1ヶ病棟(60床)を回復期で報告。

高度急性期	医療資源投入量	3,000点以上	
急性期	医療資源投入量	600点以上	3,000点未満
回復期	医療資源投入量	175点以上	600点未満
慢性期	医療資源投入量	175点未満	

3 個々の病院の指定状況とその役割	<p>① 指定状況</p> <p>当院は、結核・感染症の拠点病院及び香川県難病診療分野別拠点病院として、結核・難病の治療に特化した医療機能を提供しており、他の医療機関では代替できない医療機関であると自負している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指定状況</th> <th>平成 30 年度における実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>結核・感染症</td> <td>延べ患者数 4, 104人 (20床)</td> </tr> <tr> <td>香川県難病診療分野別拠点病院</td> <td>延べ患者数 34, 164人 うち、人工呼吸器装着患者 26, 656人</td> </tr> <tr> <td>呼吸器疾患</td> <td>誤嚥性肺炎、市中肺炎、細菌性肺炎、ウイルス性肺炎、気管支喘息、肺気腫等 延べ患者数 7, 968人</td> </tr> </tbody> </table>	指定状況	平成 30 年度における実績	結核・感染症	延べ患者数 4, 104人 (20床)	香川県難病診療分野別拠点病院	延べ患者数 34, 164人 うち、人工呼吸器装着患者 26, 656人	呼吸器疾患	誤嚥性肺炎、市中肺炎、細菌性肺炎、ウイルス性肺炎、気管支喘息、肺気腫等 延べ患者数 7, 968人
	指定状況	平成 30 年度における実績							
	結核・感染症	延べ患者数 4, 104人 (20床)							
香川県難病診療分野別拠点病院	延べ患者数 34, 164人 うち、人工呼吸器装着患者 26, 656人								
呼吸器疾患	誤嚥性肺炎、市中肺炎、細菌性肺炎、ウイルス性肺炎、気管支喘息、肺気腫等 延べ患者数 7, 968人								
<p>② 各病院の独自の取組み</p> <p>当院では、香川県難病相談支援ネットワーク事業として、神経筋難病の研修会を開催している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>取組の内容</th> <th>平成 30 年度における実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>香川県難病相談支援ネットワーク事業</td> <td> <p>平成 30 年度「香川県難病支援ネットワーク事業」による神経筋難病研修会を開催</p> <p>第 1 回 日 時：11月30日(水) 13:30~15:30 場 所：高松テルサ テーマ：「神経難病の嚥下障害」</p> <p>第 2 回 日 時：2月8日(金) 14:00~16:00 場 所：高松医療センター テーマ：「寄り添う・つながる・備える災害医療」</p> </td> </tr> </tbody> </table>	取組の内容	平成 30 年度における実績	香川県難病相談支援ネットワーク事業	<p>平成 30 年度「香川県難病支援ネットワーク事業」による神経筋難病研修会を開催</p> <p>第 1 回 日 時：11月30日(水) 13:30~15:30 場 所：高松テルサ テーマ：「神経難病の嚥下障害」</p> <p>第 2 回 日 時：2月8日(金) 14:00~16:00 場 所：高松医療センター テーマ：「寄り添う・つながる・備える災害医療」</p>					
取組の内容	平成 30 年度における実績								
香川県難病相談支援ネットワーク事業	<p>平成 30 年度「香川県難病支援ネットワーク事業」による神経筋難病研修会を開催</p> <p>第 1 回 日 時：11月30日(水) 13:30~15:30 場 所：高松テルサ テーマ：「神経難病の嚥下障害」</p> <p>第 2 回 日 時：2月8日(金) 14:00~16:00 場 所：高松医療センター テーマ：「寄り添う・つながる・備える災害医療」</p>								
<p>①近隣の病院との機能連携・役割分担の状況</p> <p>当院患者の急性増悪時に高次の救急医療機関に紹介し、また、救急医療機関において急性期を脱した患者等を受入れるなど、近隣の病院とは連携・機能分化する関係を築いている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>機能連携・役割分担の状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>香川大学医学部 附属病院</td> <td>H30 年度 紹介数 198 件 逆紹介数 249 件 特定機能病院として連携</td> </tr> <tr> <td>香川県立中央病 院</td> <td>H30 年度 紹介数 35 件 逆紹介数 39 件 三次救急病院・地域医療支援病院として連携</td> </tr> <tr> <td>屋島総合病院</td> <td>H30 年度 紹介数 19 件 逆紹介数 19 件 二次救急病院として連携</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	機能連携・役割分担の状況	香川大学医学部 附属病院	H30 年度 紹介数 198 件 逆紹介数 249 件 特定機能病院として連携	香川県立中央病 院	H30 年度 紹介数 35 件 逆紹介数 39 件 三次救急病院・地域医療支援病院として連携	屋島総合病院	H30 年度 紹介数 19 件 逆紹介数 19 件 二次救急病院として連携	
病院名	機能連携・役割分担の状況								
香川大学医学部 附属病院	H30 年度 紹介数 198 件 逆紹介数 249 件 特定機能病院として連携								
香川県立中央病 院	H30 年度 紹介数 35 件 逆紹介数 39 件 三次救急病院・地域医療支援病院として連携								
屋島総合病院	H30 年度 紹介数 19 件 逆紹介数 19 件 二次救急病院として連携								
4 近接・競合の視点									

【高松市意見書】高松医療センター

現在、結核病床を有する医療機関は、県内3か所で、香川県立中央病院5床、小豆島中央病院5床、高松医療センター20床となっており、高松医療センターは、昭和16年より、結核専門医療機関として、本市域における結核医療の中核的な役割を担っている。

本市の排菌患者（感染症法37条措置入院）のうち、平成29年76%、30年68%、令和元年75%と多くの結核患者が高松医療センターで入院治療を行っている。

また、高松医療センターは、平成29年より多剤耐性結核に対応できる病床を1床設置し、抗結核菌薬に耐性を示す患者の治療が行える県内唯一の医療機関となっており、今後、外国人の結核患者が増え、抗結核薬の耐性を持つ患者発生の可能性もあることから、多剤耐性結核に対応できる病床が必要である。